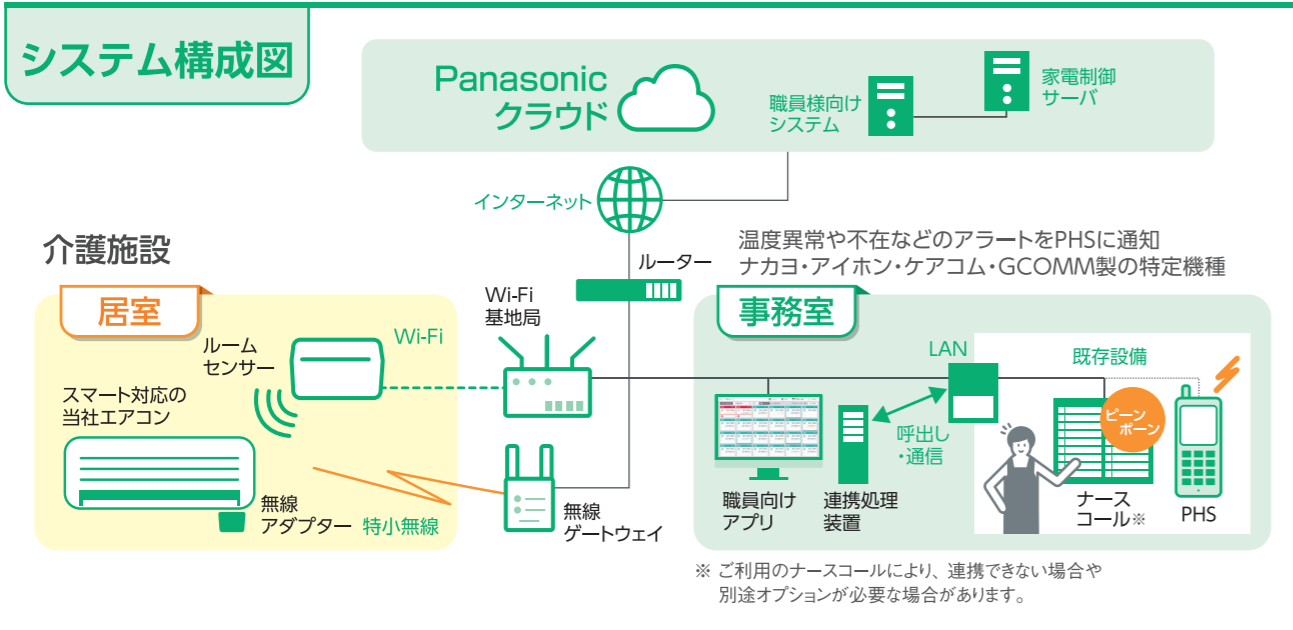
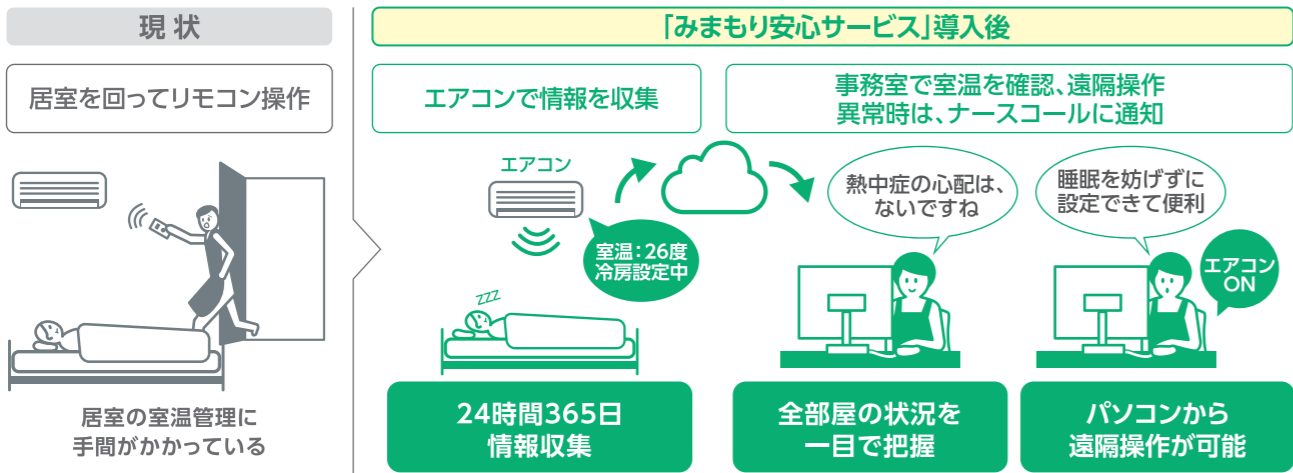


全部屋の室温を事務室で把握、エアコンの遠隔操作もできます



お問い合わせ先

パナソニック コンシューマーマーケティング株式会社
SE社 システムエンジニアリングセンター
広域営業部 オペレーション課 TEL:03-5782-7903
support@gg.jp.panasonic.com

パナソニック株式会社
イノベーション推進部門
ビジネスイノベーション本部
〒571-8508
大阪府門真市大字門真1006番地
©Panasonic Corporation 2018
本書からの無断の複製はかたくお断りします。
このパンフレットの記載内容は
2018年4月現在のものです。



みまもり 安心 サービス

サービスの
質向上



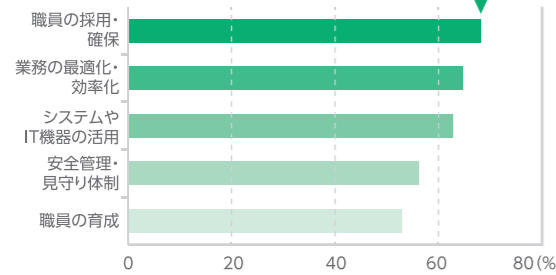
現場を取り巻く状況

施設長様からみた状況

職員の人材確保が何より大事
ケアの質が低下すれば、
さらに悪循環

●施設の経営課題(特養)

67%



- 職員の人材不足が深刻、新人に知識を伝えられる職員がいない
- 十分な配置ができないままケア、安全管理に努めている

出典：「2018年版特別養護老人ホームにおける介護IoT見守り機器システムのニーズ把握調査(株)シード・プランニング」より作成

介護ロボットでの効率化に期待

- ロボット技術の介護利用における重点分野において、新たに1分野5項目が追加(H29年)



介護業務支援とは…
ロボット技術を用いて、介護業務に伴う情報を収集・蓄積し、それを基に、高齢者等の必要な支援に活用することを可能とする機器

- 都道府県等による導入補助制度あり
- 夜勤職員配置加算の条件改定(特養における見守りロボット導入/H30年度法改正)

現場職員様からみた状況

転倒事故の未然防止が課題

- 目が届かない場所での転倒は防ぎきれない



- 離床センサーを導入しても、防げない



「ベッド周辺の離床・転落センサー」は特養の約8割で導入済み

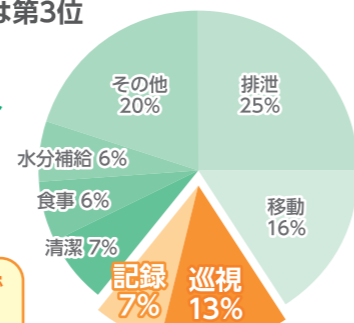
職員が少ない夜間業務が負担

- 夜間の職員配置は少なく、見守り体制は脆弱
基準内[職員1対入居者3]施設でも、夜間帯は1対20



- 事故予防・異変把握のため人海戦術で対応
「巡視」の業務量は第3位

介護職員の
従事時間割合
(夜勤)



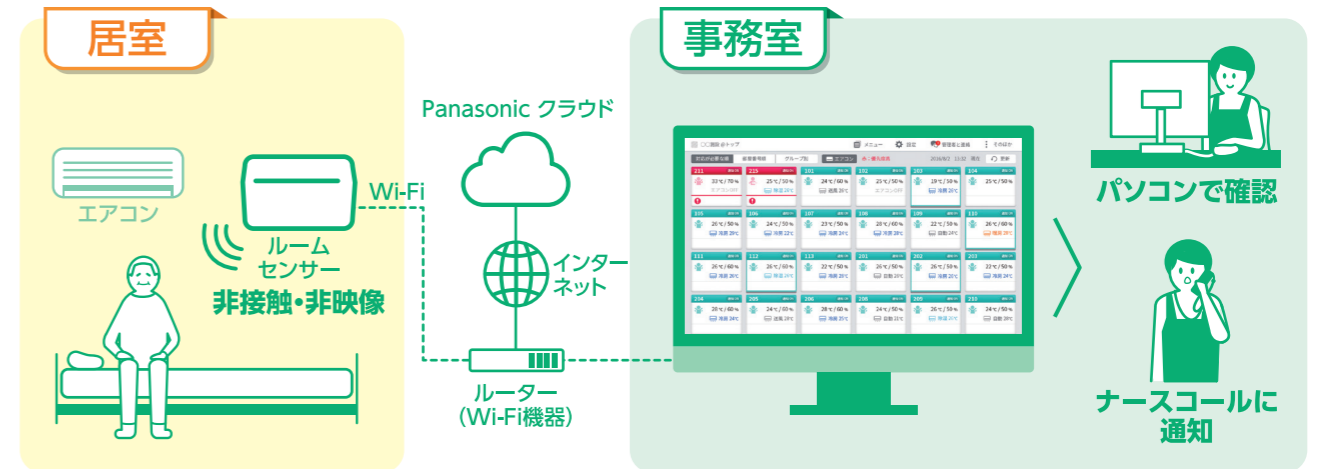
「巡視」と「記録」で
2割

出典：「将来の介護需要に即した介護サービス研究会」(経済産業省)より作成

IoT機器とAIデータ分析で 切れ目のない見守りのご提案

非接触センサーのデータから、お一人毎のいつもの様子をAIが学習し、変化をお知らせ。
お忙しい職員様に代わり、24時間365日切れ目のない情報収集で、見守りをサポートします。

機器構成と機能



機能 1

安否確認

▶詳しくは3ページへ

機能 2

睡眠リズム把握

▶詳しくは4ページへ

機能 3

空調管理 (オプション)

▶詳しくは裏表紙へ

開発中

ベッド上での
動き検知
センサー

導入事例

事例 1

個別ケアによる
自立支援・重度化予防

睡眠レポートを活用し、昼夜逆転が見える化。デイサービスの利用を開始し改善。重度化予防につながった事例。

▶詳しくは5ページへ

事例 2

夜間巡視適正化による
業務負担軽減

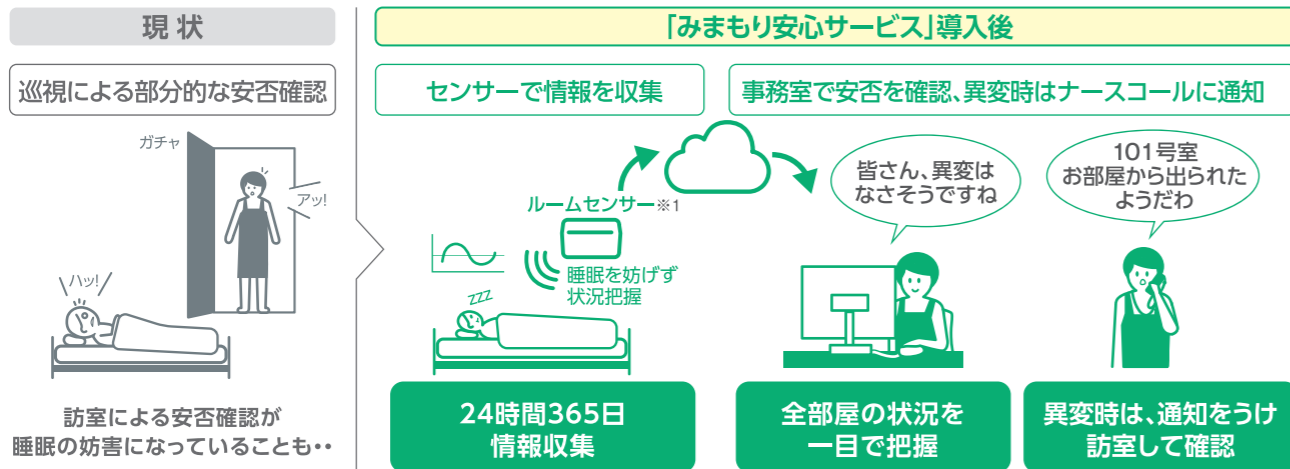
施設全室で、睡眠リズムを見える化し、ケアカンファレンスで検討。夜間の巡視適正化を図り、職員の心身の負担軽減につながった事例。

▶詳しくは6ページへ

サービスの質向上と業務負担軽減につながっています。

機能1 安否確認

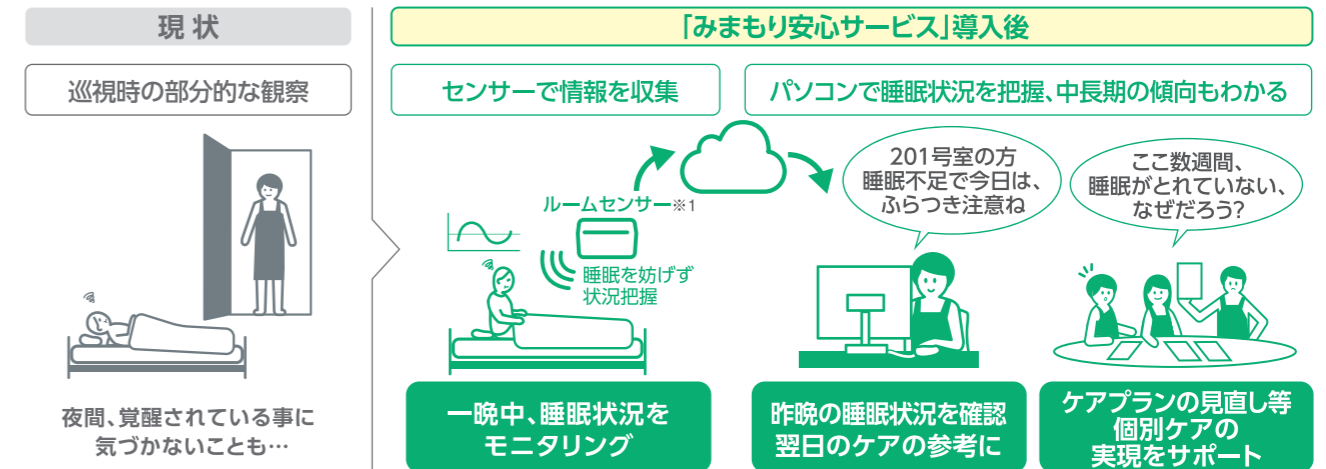
訪室しなくても、センサーがご入居者の状況を把握し、事務室から確認できます



機能2 睡眠リズム把握

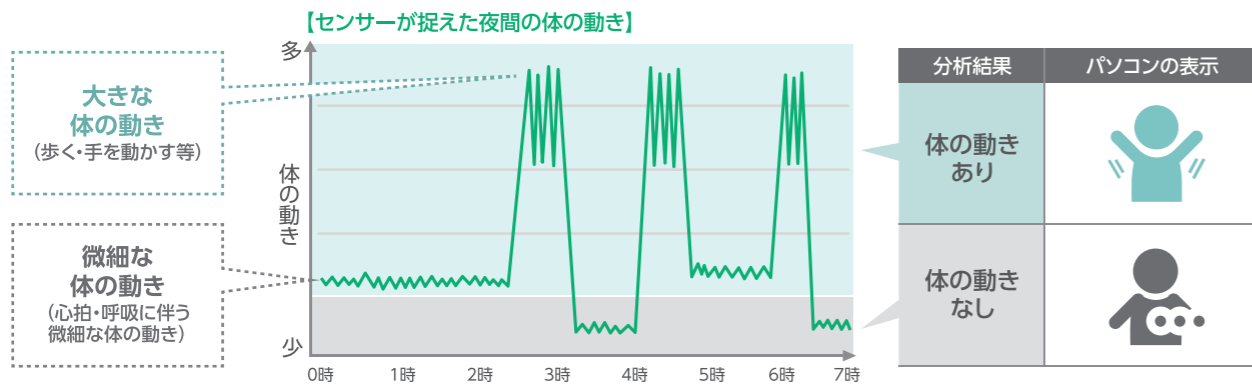
(睡眠レポート機能)

人の眼だけでは把握が難しい睡眠の傾向がわかります



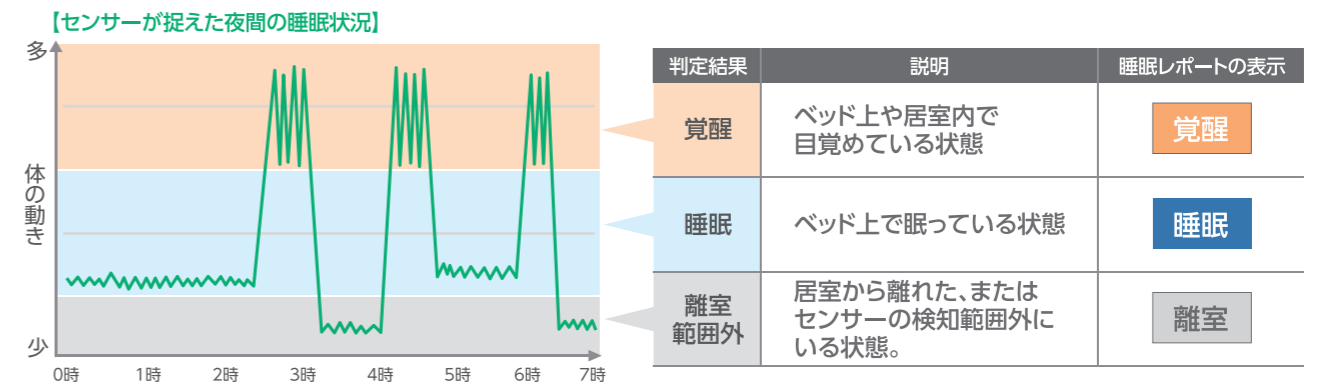
仕組み

センサーが捉えるバイタルサイン※を分析し、安否状況として表示 ※ バイタルサインとは…心拍・呼吸に伴う微細な体の動き



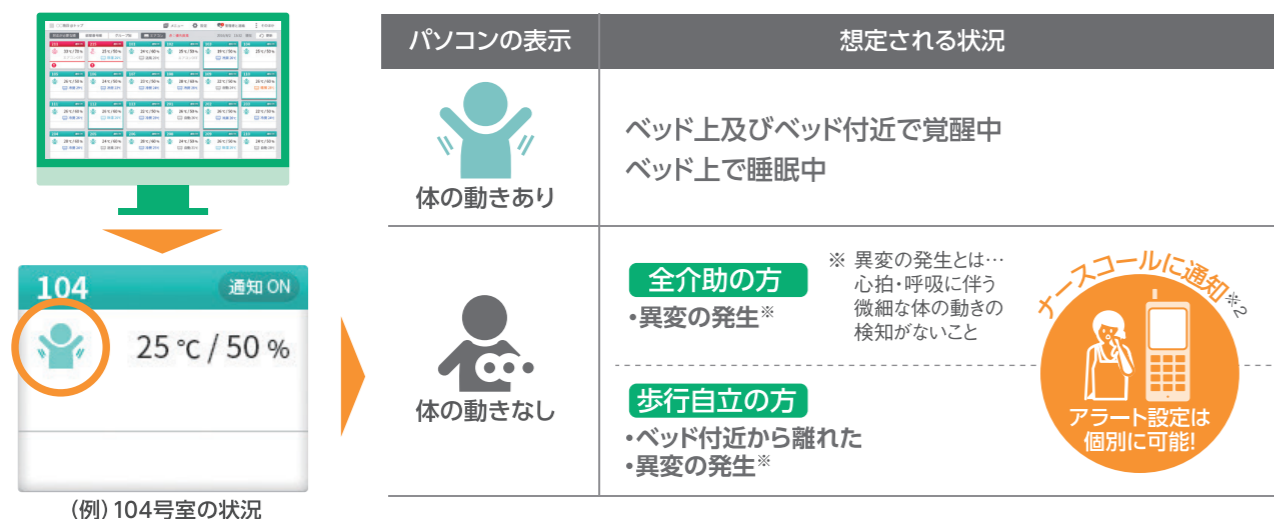
仕組み

センサーが捉える体の動きデータから、「睡眠」、「覚醒」を判定



活用方法

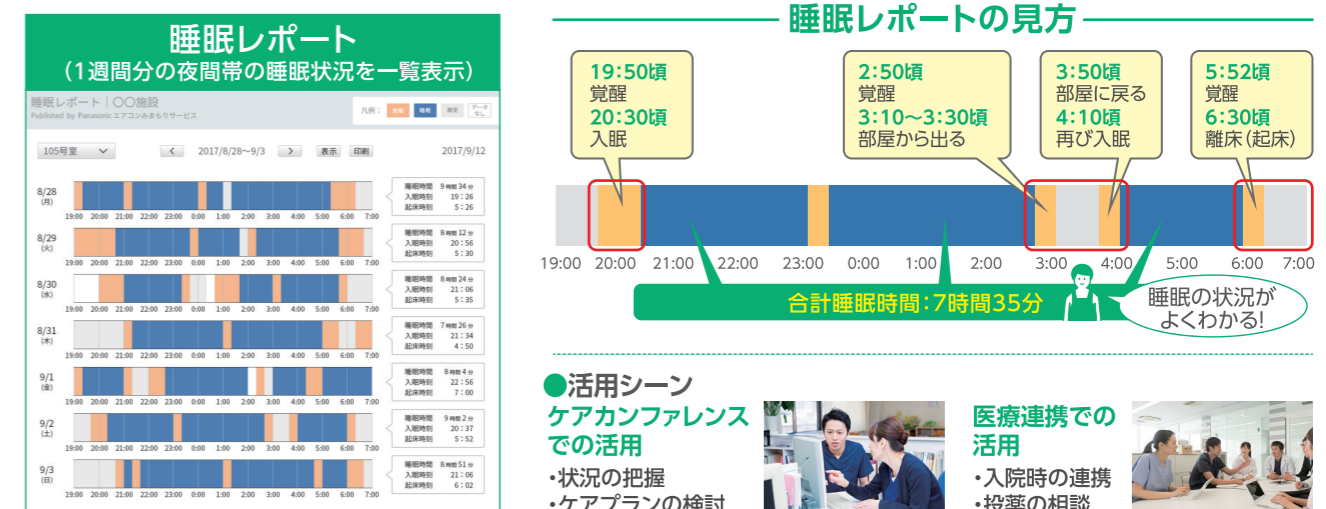
パソコン表示から安否状況を判断、異変時はナースコールに通知を受け訪室して確認



※1 センサー検知は、複数人やペット等がいる場合は使用できません。センサーの設置状況によっては、把握できない場合があります。
※2 ご利用のナースコールにより、連携できない場合や別途オプションが必要な場合があります。

活用方法

居室毎の「睡眠レポート」をご入居者のモニタリング情報として、ケア会議等で活用



事例1 個別ケアによる自立支援・重度化予防

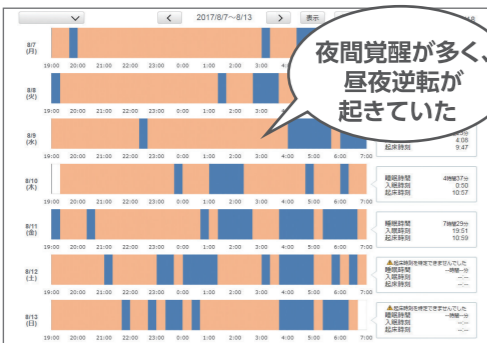
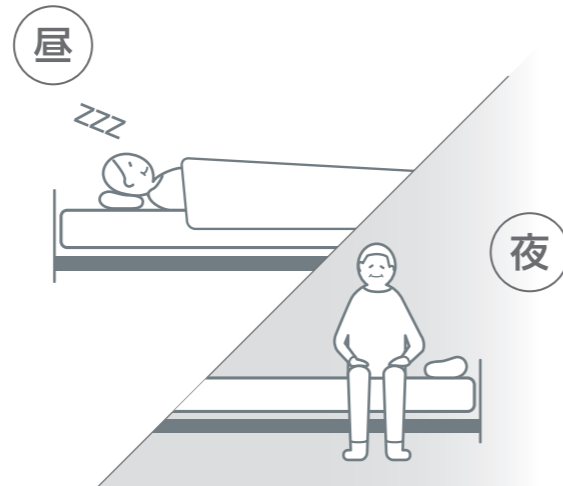


ココファミリア沼津
種別：サービス付き高齢者向け住宅
(介護サービス事業所併設)
導入時期：2017年7月

睡眠レポートを活用し、昼夜逆転を見える化。デイサービスの利用を開始し改善。重度化予防につながった事例。

Before 不規則な生活習慣

- 睡眠**：夜間ほぼ覚醒
- 排泄**：重度の便秘
- 食事**：1日2食
- 運動**：なし



合計睡眠時間 34時間45分/週

After デイサービスを週3回利用

- 睡眠**：睡眠時間の増加
- 排泄**：便秘改善
- 食事**：1日3食しっかり食べられるように改善
- 運動**：エアロバイクによる自発的な運動実施



合計睡眠時間 41時間40分/週

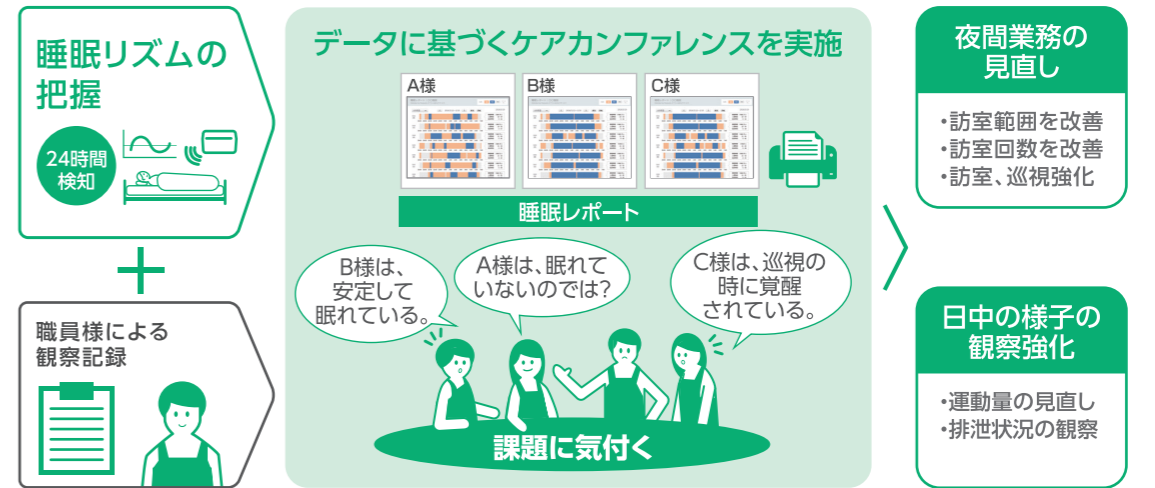
夜間睡眠時間 約7時間/週の改善

事例2 夜間巡視適正化による業務負担軽減

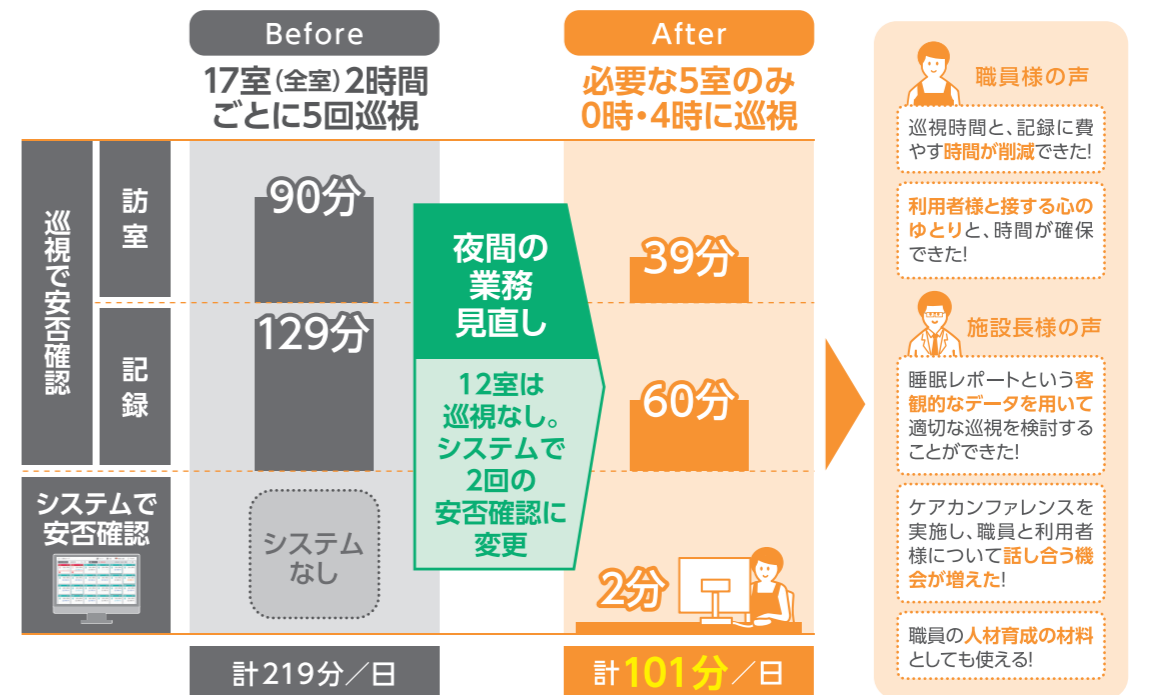


エイジフリーハウス茨木総持寺
種別：サービス付き高齢者向け住宅
(小規模多機能型居宅介護併設)
導入時期：2017年5月

施設全室で、睡眠リズムを見える化し、ケアカンファレンスで検討。夜間の巡視適正化を図り、職員の心身の負担軽減につながった事例。



巡視・記録時間の変化



業務効率化 118分/日を実現